足摺岬物語

君とゆくなら
足摺岬な
「足摺踊」♪

土佐湾を抱え込むように四国最南端に位置する足摺半島。背後の険しい山地には、ツバキ・ウバメガシ・シイ・カシ・ユスなどの深い森があり、海岸部にはアコウ・ビロウなどの亜熱帯の木々が太平洋からの潮風に揺れ南国土佐の風情があふれている。

足摺半島には5,000年もの昔より縄文時代から人々が暮らしていた。九州姫島産の黒曜石の矢じりが多く出土した唐人駄場の巨石群やストーンサークルには、太古のエネルギーとロマンを感じる。パワースポット!

金剛福寺までの行程は岩村からも延光寺へも土佐路において最長。まさに足をひきずる「あしずり」の難行道程。昔は山坂を越え谷を渡り危険な断崖や磯道迷えば深山に入り込む悪路だった。

山中にはいたるところに花崗岩の巨石

天狗伝説

足摺の原生樹林の奥には天狗が住むといわれている。金剛福寺の領地で殺生禁断の布告により住民が足を踏み入れることができない山でもあった。最深峰 白皇山には修験の山伏が行来する様子は、まさに天狗が住む山中として畏れられている。現代も白皇山ではしばしば道に迷う登山事故が発生する。これも天狗の仕業かも知れない。

テング山

(国有林)
国民の森
国有林は
四万十森林管理署が管理

秋を彩るノジギクとツワブキ。
ノジギクは物部川を渡ることができない不思議な小生態がある。

足摺沖は
カツオ漁の
好漁場
として賑う。

空海くん

さえぎるものがなく
どこまでも広がる空と
海の世界は潮騒で
いっぱい!

足摺山
(蹉跎山) 168M

照葉樹林の森

国有林、金剛福寺敷地、市有林からなる。その昔、弘教僧達の修験道場霊山として信仰の場所でもあった。保安林・自然休養林にも指定され国民のくらしを守りやすらぎを与えている。蹉跎山の由来は、空海が足摺岬の樹海に住む悪魔を調伏し降参した悪魔が手すり足すり逃げたことにちなみ「足すり・踏みにじる」という意味が地名の源となり、江戸の頃より足摺と呼ばれるようになった。

足摺温泉郷

補陀落東門

嵯峨天皇宸筆

金剛福寺の山門には「補陀落東門」の額。平安初期、嵯峨天皇の筆によるもの。仏教信仰ではインドの南海上に観音浄土(補陀落の浄土)があるとされ、そこから見ると足摺岬は東方に位置することから「東門」とされたという。

同行二人
遍路道

火立場(狼煙場)

のろしは

鎖国時代、異国船が近づくと発見した浦辺から狼煙があげられ次々と高知城下まで伝えられていった。
足摺周辺では伊佐の姫山、津呂、松尾、窪津、以布利に「火立場」(狼煙場)があり乾燥した狼の糞は火が付くとほとんど吹き消されることなく発煙性が高かった。狼糞の入手が困難ならば野犬の糞を代用にしていた。

亜熱帯植物園

足摺は珍しい植物の宝庫。トロピカルムード漂う岬の一画に日本最北端の亜熱帯植物園がある。
まるでジャングルのような様相で亜熱帯の花木やビロウ、シダ、ヤシなどの植物が生い茂っている。
昭和48年(1974)開園。
足摺の景観を活かし、遊歩道や休憩舎、バイオトイレなどが設けられている。昭和53年には天皇陛下の行幸啓があったところでもある。
(国有林)

大師亀

金剛福寺

渡海僧の碑

白皇神社

足摺・宇和海国立公園

万次郎足湯

波乱万丈 万次郎!!

亀岩

口がしびれる
クワズイモ群落 不食芋

ロマンス歩道

アロウド決

白山洞門

高16m 巾17m 海食洞では日本一の大きさ
ハートに見えるかな

白山権現

亀石

海の青さに溶けこんでしまう

刻一刻と形を変える波が断崖にぶつかるダイナミックな風景。

樹林の中にどーんと鎮座。

亀呼場の方を向いている。
正真正銘の自然石。
頭をなでると御利益。

補陀落渡海

足摺岬から南海上にあるという補陀落の浄土を目指し決死の船出をしていった僧達をしのぶ碑が沖のほうにひっそりと立っている。

685年、白鳳の大地震により足摺周辺を含む土佐沖にあった黒田郡と呼ばれる陸地が海中に陥没したと伝わっている。

参考文献

土佐清水市史(上下)

人の力ではいかんともしがたい海の王者鯨が誰にはばかることなくゆうゆうと群遊していた足摺の海。
藩政時代には窪津が藩営の鯨場所とされた。

2015-6-4

ゆるぎ石

寝笹

木の股地蔵

不増不滅の手水鉢

T3.4.1. 白亜の八角形灯台として点灯
S35 ロケット砲改築

親指行者が押すとゆらぐ

爪書石

弘法大師が爪で「南無阿弥陀仏」と刻んだと伝わる岩

一夜建立 不成の華表

(とりい)

(未完の鳥居跡)

汐の満干手水鉢

亀呼場

修業の地であり聖地である

足摺岬

空海が灯台沖の不動岩へ渡るために空を呼んだと伝わる断崖の上。
「おーい カメさんよぉ~」と呼ぶとカメが現れることもあるという。

航行目標
保安林でもある
かつては蹉跎の岬と呼ばれていた
(白皇山のある佐田山は「蹉跎山」に西洋風で漢字名を改めたのかも。)

伊佐経塚

足摺岬灯台用地から鎌倉時代に仏教教典を筒に納経二本の経筒が発見され、国立博物館に所蔵されている。

空海伝説 足摺七不思議

断崖の絶景 足摺岬。
ヤブツバキの遊歩道に沿って1200年前金剛福寺を開いた弘法大師空海に由来する足摺七不思議。
潮風に吹かれながら大古の歴史とロマンに触れて歩くのも楽しい。

古来より岬突端部は「鯨野郷」の「伊佐」と呼ばれていた。「いさ」は「鯨」「いさな」。鯨の回遊する地域として知られていた。
鰹漁で栄え足摺村をおさえて岬の総称となる。
清水村 伊佐→清水町伊佐→土佐清水市伊佐と継いできたが昭44.4.1に行政区画により足摺岬に改称される。

展望台

三面と太平洋に開く絶景。
地球の丸さが感じられる水平線が広がる。

天狗の鼻

21世紀に残したい日本の風景 四国ナンバー1位。
天狗の鼻から灯台を望む。

ビロウ自生地

大地の果ての足摺に亜熱帯植物のビロウ自生の東限がある。
海からの強風により樹高は低い。

オオジシバ

岬先端でも水は豊か。深い森林の保水力によって枯れることがない。

メジロは梅大好き

トメド

ジョン万次郎像

ヤブツバキのトンネル

地獄の穴

観光案内所

WC

台風中継で頻繁に映る

伊勢宮